

人間関係づくり実践モデル事業 報告書

学校名（岩国市立河内小学校）

1 学校の概要

本校は、6学級、児童数85人の小規模校である。

学校は岩国市の西部に位置し、錦川の支流の一つである保木川を取り巻く所に校区がある。もともと準農村であったが、現在は兼業農家が大部分を占めている。新世代交代・都市部からの転入などもあり、以前の農村型の連帯意識はいくらか弱まってきている。しかし、地域の諸行事を通して、より広い立場での新しい連帯感が生まれつつある。教育全般への関心度は高く、学校行事へも協力的である。本年度、本校は国民文化祭子ども夢プロジェクトに取り組んだが、その際も、「ゲストティーチャー」から「炊き出し」に至るまで、地域の方々・保護者の方々から様々なご支援をいただいた。

本校の学校教育目標は「豊かな心をもち、主体的に生きる児童の育成」、めざす学校像は「互いに助け合い、励まし合える学校・自信と誇りのもてる学校」である。その具現化のために、各領域の基礎・基本の定着を図りつつ、総合的な学習の時間などを通して、自然・人とのふれあいを大切にしながら、自らの課題を主体的に追求していけるような教育活動に努めている。

2 児童生徒の実態と事業の必要性

本校は児童数が100人に満たない小規模校で、1年生に入学してから6年生で卒業するまでクラス替えはない。中には、幼稚園時代を含めて10年近く同じクラスという子どもたちもいる。小規模校ならではの他学年との交流も盛んではあるが、これも少ない人数の中での人間関係であることに変わりはない。このような環境の中では、一度できあがったイメージは払拭されにくい。また、自分自身さえそのイメージに縛られてしまい、新しい自分・本当の自分に気づきにくくなる。更に、少ない人数の中での変化に乏しい人間関係も、友だちや自分自身への新しい気づきを難しくしてしまう。このような子どもたちに構成的グループ・エンカウンター（以後SGEと略記）を中心とした人間関係づくりにかかわる教育活動を意図的に行い、自己理解・他者理解を通して自己肯定感を高めることは、「生きる力」の育成に欠くべからざる要素であると考えた。

また、本校は、家庭的に問題を抱えた児童・様々な要因から心の健康が保てずに不登校気味になってしまう児童が、人数の割に多い。こういった児童に、「育てるカウンセリング」とも言われるSGEを中心とする人間関係づくりの体験をさせることは、心のケアの面からも有効であると考えた。本校の児童は、小学校卒業後、統合によって新設された岩国西中学校に入学する。近隣の3つの小学校の子どもたちが集まることになるが、家庭的に問題を抱えた子、精神的に不安定になりやすい子にとっては抵抗が大きいと予想される。そのようなとき、人間関係づくりの学習を通して人と人とのつながりがもつあたたかさを体験したことが大きな支えになると考えた。

更に、表現力の面からも、思いを伝え合うことを基盤とする人間関係づくりの学習は必要と考えた。本校の児童は、気心の知れた仲間の中で過ごしているため、多くを語らなくてもすむ場面が多々ある。そのせいか、自分の思いを表現することを苦手とする児童が多い。これまでの校内研修でも度々テーマとしてきており、本事業とつながると考えた。

3 取組の紹介

【1年次】 豊かな心を育む人間関係づくり～基礎・基本を定着させる指導方法の工夫～

(1) 具体的な取組

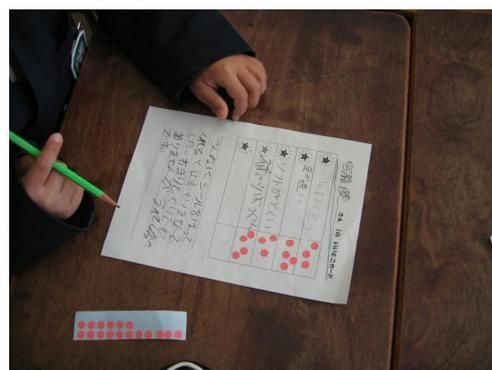
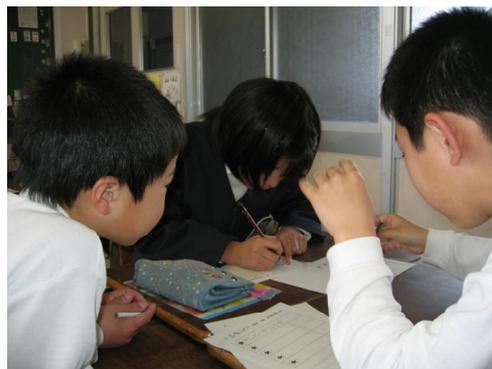
第3学年 学級活動の授業

- 1 題材名 いいとこさがし
- 2 ねらい 友だちのいいところを書く活動を通して友だちのよさを見つける。
友だちが見つけてくれた自分のよさを知り、受け入れられる喜びを味わう。
- 3 展開

| 学習活動・内容 | 教師の働きかけ |
|--|--|
| 1 じゃんけんゲームをして、勝った子のよいところを探して言う。 | ○エクササイズに入りやすいようにリラックスさせる。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">友だちのよいところをたくさん見つけよう</div> | |
| 2 いいとこさがしのエクササイズをする。 ・配られたカードに自分の名前を書き、グループでまとめて違うグループに渡す。 ・渡されたカードにグループで相談していいところを書く。 ・次のグループに回す。 〈ルール〉 ①友だちのよいところやがんばっていることを書く。 ②班のみんなで相談して決める。 ③決められた時間内（3分）で書く。 「走るのが速い」 「けがをしたときに保健室につれて いてくれた」 | ○グループづくりに配慮する。 ○よさには、見た目だけでなく内面もあることを、具体的に示して伝える。 ○班のみんなで話し合っって1つだけ書くが、なるべく前に書いてあることと同じにならないように助言する。 |
| 3 カードを再びまわし、自分もそうだなと思うところにシールをはる。 | |
| 4 自分のカードを読み、いいとこさがしについて振り返る。 「自分のいいところを見つけてもらってうれしい」 「友だちのいいところをたくさんみつけた」 | ○班で感想を話し合う。全体場で自分で言える人は自分で発表し、言えない人は班の人に言ってもらおうようにして、多くの意見を引き出す。 |

4 授業後の考察

友だちのいいとこさがしは、グループで相談できたこともあり、全員が楽しく参加した。自分のところにもどってきた「いいとこカード」を照れくさそうに読む姿、隣の席の友だちとうれしそうに見せ合っている姿を目にすることができてよかった。感想の中には、「書いてもらったいいとこを読んで、明日からまた学校に来るのが楽しみになる」という内容があった。1時間の授業を楽しみ、心が温まって帰るだけでなく、明日からの力にもなることが分かった。子どもたちが本音で語れる学級づくりのために、リーダーとしての資質を高めていきたい。また、授業だけでなく日々の活動の中でも「いいとこさがし」を取り入れ、子どもたち一人ひとりの感じたことを大切に受け止めていきたいと思う。



(2) 1年次の成果と課題

① 成果

鈴峯女子短期大学助教授の森洋介先生をお招きして、SGEの基礎から教えていただいた。いくつかのエクササイズを紹介していただき、実際やってみて、授業の中に取り入れるヒントを得た。SGEは、「ふれあい」と「自他の理解」を目的とした集団体験学習であるが、豊かな心を育む人間関係づくりにおいて大切であることが分かった。

上級カウンセラーの森洋介先生とエクササイズをしたり講話を聞いたりする中で、あたたかな人間性に触れることができ、リーダーのもつ受容的態度が大切だということが分かった。エンカウンターは、一人ひとりの受け取り方を肯定し、客観性や普遍性にこだわらない。リーダー自身がその考えをもっていることで、メンバーは安心して自分を表現できるということを学んだ。

② 課題

人間関係づくりは、学校の教育活動全体を通して行われるものであるが、日々の授業の中で培われていくものが大きい。豊かな心を育む人間関係づくりについて研修を深める中で、子ども一人ひとりがもつ自己肯定感が大切であることに気づいた。一人ひとりが自分を大切に思えるなら、他者をも大切に思える集団となるであろう。今後は、「本音で語れる学級づくりのために、授業や学校生活の中で教師がどのようにかかわっていくか」を研究することが課題と考える。

【2年次】 豊かな心を育む人間関係づくり～互いの思いを伝え合う授業を目指して～

(1) 具体的な取組

第5学年 学級活動の授業

- 1 題材名 サイコロトーク
- 2 ねらい 思いを伝え合う活動を通して、自分の思いに気づくとともに、友だちのよさや個性を知ることができる。
- 3 展開

| 学習活動・内容 | 教師のはたらきかけ |
|--|---|
| 1 どんなエクササイズをするのか知る。 ・ねらい ・ルール ・やり方 | ○エンカウンターでのねらいを分かりやすい言葉で示し、目的意識をもたせる。 ○ルールを示し、安心感をもたせる。 ○簡潔にやり方を説明する。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分を知ろう！友だちを知ろう！ </div> | |
| 2 テーマについて考える。 ・自分のいいところ ・がんばっていること ・都会といなか、住みたいのはどっち ・夏と冬、好きなのはどっち ・最近、うれしかったこと ・好きなテレビ番組 3 テーマについて2人で話す。 ・聞き取りやすい話し方 ・話しやすい聞き方 4 互いに感想を言い合う。 5 今日の活動について振り返りをする。 ・自分について ・友だちについて ・エクササイズ全体について | ○教師がデモンストレーションを行い、モデルになるとともに、児童の抵抗を小さくする。 ○サイコロで話すテーマを決め、楽しい雰囲気をつくる。 ○あいづちについての学習を想起させ、相手が話しやすい聞き方を心がけさせる。 ○「もう一度お願いカード」や「質問カード」を取り入れ、よく聞こうという意識をもたせる。 ○全体に紹介したいことはないか、投げかける。 ○プリントに、自分について思ったこと、友だちの発表について感じたこと、エクササイズをしてみたの感想を書かせる。 ○机を輪にして、友だちに伝えるという意識を持たせる。 ○教師自身の感想も伝える。 |

4 授業後の考察

子ども達が楽しみながら自分の思いをしっかりと話し、友達の話もよく聞いていたので、ねらいは達成できたように思う。2人組にしたことで話しやすい雰囲気になり、普通の話し言葉で話している子もいた。3と4の活動は、相手を変えて2回繰り返したのだが、2回目はもう少し人数を増やしてもよかった。同じことを二度繰り返すより、徐々にレベルを上げることで子どもたちにとって意欲づけにも自信にもなったと思う。

子どもたちの抵抗を取り除くために、いつも教師がデモンストレーションを行うのだが、今回も興味深そうに聞いてくれた。それにより、教師と児童の人間関係も育まれると感じる。

授業後の協議会で、「T・Mさんはエレクトーンのことばかり言って、すごく好きなんだと分かったという感想がいくつか出たが、何かにこだわりがあるというのは自分があるということだし、それに周りの友だちが気づくというのは、理解してあげているということですばらしい」というご意見をいただいた。なるほどと思った。私にここに気づく力量があったら、リーダーとして適切に介入できたのにと反省した。また、「自分のことを正直に言えてすっきりしました」という感想に対しても、大事な気づきだと分かっただけでも十分な対応ができなかった。「他に同じ気持ちになった人はいる？」と切り返して、全体に広げられればよかった。振り返りの際のリーダーとしての介入の仕方に、自分の力不足を感じる。私自身にこの力量がつくことが、エクササイズの評価を高め、子どもたちの自己理解・他者理解の感覚を鋭くさせることができると痛感した。



(2) 2年次の成果と課題

① 成果

2年次は、1年次の取組の中から見えてきた課題「本音で語れる学級づくりのために、授業や学校生活で教師がどのようにかかわっていくか」の解明に向けて研修を進めた。まず、学級活動にSGEを計画的に繰り返し取り入れた。自分を見つめ、友だちを知る機会を多くもつことで、子どもたちの自己理解・他者理解が深まった。自己理解・他者理解が深まることで、自らに対し自己肯定感をもつことができ、そのことが本音で語れるということにつながったと思う。また、エクササイズを通して温かな人間関係を繰り返し体験できたことも、心を許して本音で語れることにつながったと思う。

② 課題

1年次に見えてきた課題の1つに「リーダーとしての教師の資質向上」があった。特にシェアリングの段階での介入の仕方に力不足を感じていた。今年度、授業研究を通して、どうすればシェアリングを深めることができるかという方向性は見えてきた。しかし、実際の場面では、児童の多様な気づきに対して即座にうまく対応することができず、反省・後悔することが多い。リーダーとしての教師の資質向上は、今後も課題と言える。

4 2年間を通しての取組の成果と課題（まとめ）

（1）成果

鈴峯女子短期大学助教授の森洋介先生をお招きして、S G Eを教えていただき、各学級で実践した。一人ひとりの受け取り方を肯定し、固定観念にとらわれない、受容的態度を心がけて取り組んだ。エクササイズはゲーム的要素があって楽しいので、子どもたちはエンカウンターが好きで、「明日の学活はエンカウンターです」と言うと、「やったー！」という歓声があがるようになった。しかし、次々とエクササイズをこなすことがS G Eではない。1年次を終えて、「本音で語れる学級づくりのために、授業や学校生活で教師がどのようにかかわっていけばよいのか」という課題が見えてきた。

2年次は、この課題の解明に向けて研修を深めた。まず、学級活動にS G Eを計画的に繰り返し取り入れた。自分を見つめ、友だちを知る機会を多くもつことで、子ども達の自己理解・他者理解は深まった。自己理解・他者理解が深まることで、「自分は他人とは違うんだ」「自分は自分でよいのだ」という自己肯定感をもつことができ、そのことが自分の思いを本音で語れるということにつながったと思う。また、エクササイズを通して温かな人間関係を繰り返し体験したことも、心を許して本音で語れることにつながったと思う。自分らしくあることと他者との一体感は、一見相反するもののようだが、実は幸せな人間関係の両輪であることが分かった。伝達をねらいとするエクササイズの後、「友だちにいろいろ正直に話して、すっきりした」という感想も見られるようになった。「本音で語れる」という課題が達成されつつあると感じる。

しかし、人間関係づくりは、学級活動だけで行われるものではない。そこで、年度当初に、講師の森先生から、授業におけるS G Eの活用の仕方について教えていただいた。「導入でモチベーションを高める、メインの部分で学習の枠として用いる、まとめの部分で体験の強化のために用いるといった取り入れ方がある」ということを教えていただき、日々の様々な授業や活動の中に生かすことができた。そして、その結果、よりよい人間関係が築かれてきた。

（2）課題

「リーダーとしての教師の資質向上」も本年度の課題の一つだった。特に、どうすればシェアリングを深めることができるのかというところに、力不足を感じていた。この点についても、2年次の授業研究を通して、方向性を見出すことができた。しかし、実際の場面では、ねらいを定着させるために明確化しておくべき発言、全体に広げて共有すべき発言にうまく対応できないことが多い。頭で理解できたことを実際の場面で即座に発揮できるように、実践を積み重ねて力量を上げていかななくてはならない。そのためには、継続して、これからも実践していくことが必要であると共通理解した。

S G Eを中心に研修を深め、実践を積み重ねたことで、子どもたち同士または教師と子どもたちとの間にあたたかな人間関係がつけられつつある。エクササイズをクラスの実態に合わせてアレンジする、日々の授業の中でエンカウンターを活用する等、工夫しながら継続していかなければならない。

5 提案プログラム

基本的に学級活動の時間に実施するが、アレンジして朝の会や教科の時間に実施してもよい。

【低学年】

| 月 | エクササイズ名 | ねらい | 活動内容 |
|----|------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 4 | 先生とビンゴ | 自己開示で親しみをもてることを体験する。 | 教師の好きな食べ物で、ビンゴゲームをする。 |
| 4 | あいさつゲーム | 友だちづくりを通して、集団への帰属意識を高める。 | ジャンケンに勝ったら、自己紹介の書かれた名刺をもらう。 |
| 5 | ごろごろ お昼寝集会 | 色々な感じ方があることに気づき、それを尊重する。 | レジャーシートに寝っ転がり、感じたことを言葉や絵で発表する。 |
| 5 | サッカー ジャンケン | ジャンケンを通して多くの相手と関わり、リレーションを作る。 | 攻めのチームが勝ち進んで、ゴールキーパーに勝ったら得点できる。 |
| 6 | はい！ポーズ | 非言語表現による自己主張の体験をする。 | 好きなポーズをとったり、日直のポーズをまねたりする。 |
| 6 | 4つの窓 | 好み似た友だち、好みが違う友だちの存在を知る。 | 4つの選択肢から自分にあうものを選び、選んだわけをたずね合う。 |
| 7 | いいとこさがし | 友だちが見つけた自分のよさを知り、喜びを味わう。 | グループで協力して、友だちのいいところをカードに書く。 |
| 9 | わたしだけが知っている | 体験を語ることで自信をもつとともに、友だちのよさも知る。 | 夏休みの体験を3つ選んでワークシートに書き、誰の体験か当てる。 |
| 9 | カムオン | 楽しく遊ぶことによって、交友関係を広める。 | 王様にジャンケンで負けたらチームメイトを呼び、王様の周りを回る。 |
| 10 | 考えれば 使い道いろいろ | 自分の考えを自由に発言する活動を通し、自己肯定感をもつ。 | トイレットペーパーの使い道をたくさん考えたチームが勝つ。 |
| 10 | 何でもバスケット | 集団遊びの楽しさを知る。 | バスケットの名前を考えて遊ぶ。 |
| 11 | ぼくの学校 わたしの学校 | 自分の個性に自信をもち、他人の個性も尊重できる。 | グループ内で順番に描き加えていき、夢の学校の絵を完成させる。 |
| 11 | ゴリオリゲーム | 先生や友だちとのリレーションを深め、支持的風土を高める。 | コールによってゴリラ役、オリ役が移動して新しい3人組をつくる。 |
| 12 | ありがとう カード | 友だちの親切に気づくとともに、感謝される喜びを味わう。 | 親切にしてもらったことをカードに書き、交換する。 |
| 1 | わたしがしたい 10のこと | 自己主張の体験をするとともに自他の個性を尊重する。 | 班でしたいことベスト10を、全体でベスト1を発表する。 |
| 2 | Sケン | 身体ごとぶつかる楽しさを味わう。 | 移動して行って、相手陣地の宝物をとる。 |
| 2 | それがあなたのいいところ | 自分の個性に自信をもち、相手の個性も尊重する。 | 班の友だちのいいところ、班のいいところを考えて発表する。 |
| 3 | 自分への手紙 | 自己の成長に気づき、学校生活への意欲を高める。 | がんばったことベスト5、自分への賞状、自分への手紙を書く。 |

【中学年】

| 月 | エクササイズ名 | ねらい | 活動内容 |
|----|--------------|-------------------------------|---------------------------------|
| 4 | 質問ジャンケン | ジャンケンをしたり、話をしたりすることで仲間意識を育む。 | 2人組でジャンケンをして、勝ったほうが負けたほうに質問をする。 |
| 4 | お助けこおりおに | 人間関係を広げ、所属感をもつ。 | お助けキップを使いこおりおにをする。 |
| 5 | たんていごっこ | 楽しく友だちとかかわりながらリレーションをつくる。 | 紙に書かれた特徴をもつ人を、ジャンケンをしながら探し当てる。 |
| 5 | ご指名です | 協力し合って番号をコールし合う中で、人間関係を深める。 | 自分の番号をコールされた人が、手拍子に乗って次の人を指名する。 |
| 6 | この指と一まれ | 共通点や違いを確認してお互いを認め合う。 | リーダーの指示に従って、言葉を使わずに仲間で集まる。 |
| 6 | 聖徳太子ゲーム | 協力する体験を通して、人間関係をつくる。 | 1人が1音ずつ一斉に言った単語を当て合う。 |
| 7 | 自分のことビンゴ | 友だち1人1人と向き合い、仲間であることを再認識する。 | 自分のことをビンゴにして、友だちに当ててもらおう。 |
| 9 | いいとこさがし | 友だちのよさを見つけるとともに、受容される喜びを味わう。 | 友だちのいいところをシートに書く。同じ意見ならシールを貼る |
| 9 | ブラインドウォーク | 他者に対するいたわりを身につけ、信頼関係をつくる。 | 1人が目をつぶって、もう1人が案内して歩く。 |
| 10 | 自分のこころがすき | 自分を振り返り、自己理解する。 | できるだけ多く自分のいいところを書く。 |
| 10 | 共同絵画 | 言葉を使わないで、気持ちを伝え合う経験をする。 | 1枚の絵を、声を出さずに全員が交代で完成させる。 |
| 11 | Xさんからの手紙 | カードで気持ちを伝え、お互いの存在の大切さに気づく。 | カードに日頃言えない感謝やお礼を書いて渡す。 |
| 11 | クリスマスツリー | 1人1人が知恵を出し合って協力することを体験する。 | 班のメンバー全員が小さい台の上ののり、30秒こらえる。 |
| 12 | がんばり賞をあげよう | 友だちに賞を贈るとともに、賞をもらって自己肯定感を味わう。 | 班で友達に贈る賞を考えて賞状に書き込み、表彰式をする。 |
| 1 | 気になる私、見方をカエル | 短所を長所に言い換えることで、互いのよさを再確認する。 | 自分の短所を紙に書いて、班の人に言い換えてもらう。 |
| 2 | 集まれ仲間! | 仲間さがしを通して、存在感や所属感をもたせる。 | 自分には内容が見えないカードを背中に張って、仲間さがしをする。 |
| 2 | 無人島SOS | 多様な考え方に気づき、互いを認め合える人間関係を築く。 | 無人島に漂着したときに必要な物を友だちと話し合っ決めて。 |
| 3 | ありがとうカード | 感謝の気持ちを込めて、友だちにカードを書いて渡す。 | 1年間の感謝の気持ちを込めて、ありがとうカードプレゼントする。 |

【高学年】

| 月 | エクササイズ名 | ねらい | 活動内容 |
|----|--------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 4 | 印象ゲーム | 教師の印象から推測することで信頼関係のきっかけをつくる。 | 教師の趣味や好み、考え方などを印象から推測してシートに書く。 |
| 4 | 自分がしたいこと ベスト10 | 自分の願望を意識化し表現することで、自己理解を深める。 | 今やってみたいことを、やりたい順に10個発表し合う。 |
| 5 | 私は誰でしょう | 自分の個性に誇りをもち、友達の個性も尊重する。 | 1人1人がシートに書いたことを聞いて、誰のことか当て合う。 |
| 5 | イヤな言葉と うれしい言葉 | イヤな言葉・うれしい言葉を体験し、言葉について考える。 | イヤな言葉とうれしい言葉を言い合い、気持ちを語り合う。 |
| 6 | 何を選ぶ？ | 友だちの考えや気持ちを知り、違いを認め合う。 | 同じ物を選んだ友だちと、それに決めた理由を伝え合う。 |
| 6 | サイコロ トーキング | 友だちの1人1人を見つめ、学級全体の凝集性を高める。 | サイコロを振って、出た目のテーマについて話す。 |
| 7 | こんな友だちが いいな | 友だちに対する態度を振り返り、自己理解・他者理解を深める。 | うれしかった友だちの言動を書き出し、自分はできているか考える。 |
| 9 | やってみたいこと は何ですか？ | 自分たちの実現させたい夢を語り合い、意欲をもつ。 | 個人・係・学級でやりたいことを書き出し、具体的なやり方を考える。 |
| 9 | ミラクルマット | 友だちのよさに気づく。 | マットを使い、協力して川を渡る。 |
| 10 | 自己PR大作戦 | 自分のよさを確認する。 | 自己PRカードに自分のことを記入する。 |
| 10 | 今だから 言えるんですが | うまくいかなかった点を見直し、これからの意欲を高める。 | うまくいかなかったこと、失敗したことを発表し合う。 |
| 11 | それがあなたの いいところ | 友だち、班、学級のよさを見つけ、学級のまとまりを深める。 | 友だち、班、学級のいいところをリレー形式で書く。 |
| 11 | 窓にえがこう | 自分の現実、希望、未来等を絵で表し、相互理解を深める。 | 4つの窓に希望や夢を描き、グループの人と当て合う。 |
| 12 | 〇〇と言えば | いろいろなよさをもった友だちがいることに気づく。 | テーマごとに、思い浮かべる友だちの名前を書き、発表する。 |
| 1 | すごろく トーキング | 友だちのことをもっと知り、認め合う人間関係をつくる。 | 止まったマスに書かれているテーマについて話す。 |
| 2 | 私はわたしよ | 自分自身のいいところ、個性に誇りをもつ。 | シートの設定問に沿って自分のことを書き、誰のものか当て合う。 |
| 2 | あなたの〇〇が好 きです | よさを伝え合うことで、自己肯定感を高める。 | 2人組になって、交代で相手の長所を言い合う。 |
| 3 | 思いでビンゴ | 1年間の思い出を分かち合うことで、学級への愛着を深める。 | 班で話し合っって学級の行事や出来事、自慢をビンゴシートにする。 |